

新エネルギー活用調査特別委員会会議録（要点筆記）

令和 4年11月29日（火）

午後 3時50分 開会

○芳金秀展委員長

ただいまから、新エネルギー活用調査特別委員会を開会します。

協議第1、調査事項についてを議題とします。

（1）「県外視察の報告について」を行います。

皆さまからご提出いただいた、視察レポートはSideBooks本棚の資料1のとおり一覧にまとめています。

資料をご覧いただき、まずは小田原市の視察から捕捉説明などありましたら順番にお願いします。

○鈴木健一委員

地域マイクログリッドについてということで色々な条件がそろっているからこそできるのかなと感じましたが、半田市にも発電施設がありますので、可能性はあると思いました。ただ、どの地域を選ぶのか、どの施設を繋げるのかなどという選定は慎重さが求められると感じています。

○國弘秀之委員

災害時での活用方法について非常に勉強になりました。一方で平時における発生した電力の使い道に関しては、大手企業とタッグを組むということが非常に大事なことだと思いました。

○小栗佳仁委員

小規模分散型エネルギーを活用するために、全体的に蓄電池の群制御をして効率的な運用をされていた。半田市においても、専門担当部署などを立ちあげながら、カーボンニュートラルに取り組んでいただきたいと感じました。

○坂井美穂委員

再生可能エネルギーの導入ポテンシャルや導入量は高くない小田原市がエネルギー先進自治体になっている理由として、エネルギーマネジメントやEV等の先端技術を生かした公民連携の取組みが挙げられており、特に民の力を融合させる取組みが上手いなと感じました。半田市に活かせる提言として、再生可能エネルギー普及の取組みを行っている市民、地域金融機関、商工会議所、エネルギー会社、関係行政機関等のステークホルダーに声掛けができる専門部署としてゼロカーボン推進課などを立ち上げる。また、電力供給元となる中部電力や地域電力発電所、再エネを活用したい企業や需要家のターゲット、ベクトルをキャッチし、民間企業が事業化の可能性を検討できる環境づくりを行うこと。マイクログリッドシステムについては、民間企業の事業化の延長線上での構築の可能性について検討することが一番良いのではと感じました。

○新美保博委員

小田原市に限らず、色々なことが事業として行われていました。再生エネルギーの活用やCO₂の削減など言葉で言うのは簡単ですが、そこまでに至るまでには皆さんの本気と意気込みが必要です。専門部署においてしっかりと年月をかけて進めていことが大切だと痛切に感じました。

○加藤美幸委員

再生可能エネルギーを利用することに関して担当課があることが大きなことだと感じました。また、小田原市の再生可能エネルギーに対する方向性が、大きなソーラーより市内のあちらこちらに小さなソーラー設備をたくさん設けることにより、市民にとっても身近なものになっていると感じました。

○沢田清委員

再生可能エネルギーの活用のきっかけとなったのは、東日本大震災と伺いましたが、実際には職員のみならず連携企業や市民が本気を出して事業を進めたことが結果に結びついていると感じました。

○大山仁志市民経済部長

小田原市においては、東日本大震災の影響を大きく受けられたことから、民間企業と市民の意識が半田市とは違うという印象を受け、半田市においては、意識を高めることから始めていく必要があると感じました。また、地域新電力に関しては、市としての出資はなく、民間主導になっていることが特徴的だと思いました。マイクログリッドに関しては、小田原市は好条件が整っていたという印象で、半田市では条件を整えていくのが大変だと思いましたが、まちを強くしていく意識は大切なことだと感じました。

○澤田勝副委員長

専門部署や専門員にこだわる訳ではありませんが、専門的な知識を持っていることは非常に重要なことだと、小田原市に限らず所沢市においても感じました。

○芳金秀展委員長

小田原市の視察について、私もほぼ皆さんと同じような意見・感想を持ちましたが、1点だけ追加させていただくと、エネルギー分野においては、一部署の一事業という考えではなく、全庁的な観点で捉えていく必要があると感じました。

では、次に2日目の所沢市の視察について補足されたい意見や感想がありましたらお願いします。

○鈴木健一委員

所沢市が実施している事業をそのまま半田市で実施することは難しいですが、再生可能エネルギーの活用は進めるべきと思いました。太陽光発電がメジャーだと思いますが、乱開発による問題が発生しているためガイドラインなどのルール作りも必要だと思いました。

○國弘秀之委員

フロート式発電について興味を持ち、視察後に色々と調べてみた所、世界的にもフロート式発電は広がっているようです。その理由として水冷効果による発電効率の上昇であるとか、陸地には限りがあるが、今ある池をそのまま使えるという再利用の考えと開発費用もかからないことが挙げられます。半田市においても調整池など使える場所があるのではないかと思います。

○小栗佳仁委員

道路などの緑の保全に大きく力を入れていた所が印象的でした。これはCO2の吸収減という考え方とヒートアイランド現象緩和ということで、省エネに繋がっていく取組だと感じました。半田市に活かせることについては自己電源を有する事業者と新電力会社を設立することで安心な電力の供給源になると感じました。

○坂井美穂委員

地域新電力である「(株)ところざわ未来電力」の51%の出資株主になっていることにより、市の意思を実現していく力強い推進力になっていると思いました。また、半田市への提言として、電力供給元と再生可能エネルギーを活用したい企業である需要家の意向をキャッチでき、民間企業が事業化の可能性を検討できる環境づくりが必要だと感じました。

○新美保博委員

小田原市は民間企業や市民が主体となっていました。所沢市は新電力会社を設立し商売として再生エネルギーの活用事業をされており、同じ状況下でも違いがあるものだと思います。それぞれの市の事業は非常に参考になるものでしたので、半田市民にとって有利になる方法を選んでいければと思います。

○加藤美幸委員

市民にとってゼロカーボンシティということは、自然と再生可能エネルギーの両方ともを大切にしていかなければならないということ強く感じました。市の取組としてEVを災害時に利用する訓練を実際にされていることは活気的なことだと思いました。

○沢田清委員

全庁的な事業として考えていたことが特徴的でした。マチごとエコタウン所沢構想なども庁内研究会を立ち上げ、民間ヒアリングを行うなどしたことが良い結果に繋がっていると感じました。半田市も再エネをどの様に活かしていくのかなど、ゼロカーボンシティの全体の構想を立てていく必要があると感じました。

○大山仁志市民経済部長

小田原市と所沢市の手法は違うものの、両市とも上手くいっているので半田市として何がベストなのかを考えないといけないと思いました。専門部署の設置も大切ですが、全庁で取組む形の中で、例えば各部のマニフェストを掲げるなど常に意識を持っておく改革が必要だと感じました。

○澤田勝副委員長

所沢市の特徴として、庁内の横の連携がよくできているという印象でした。半田市においても専門的な知識を得たうえで連携が図り、進めていただきたいと思いました。

○芳金秀展委員長

新電力会社に関しては、小田原市と所沢市は全く違うアプローチでした。半田市はどちらに近いのかと考え、小田原市に近いと思いました。所沢市は自前の発電施設となるごみ焼却所を持っていますが、半田市の場合は発電施設を持っていないので小田原市のように民間がやることをサポートするとう形になると思います。また、所沢市も東日本大震災以降エコタウン化に向けての機運が高く、気候市民会議というものを立ち上げていました。取組まれてきた時間も長いので、本市で気候市民会議を立ち上げる場合は、所沢市よりもっと一所懸命やっていかないと市民意識は高まって行かないと思いました。

ご報告ありがとうございました。ここで次第書の順番が前後しますが、先に(3)その他にあります、「政務活動費を活用した石狩市視察報告について」を行います。こちらは、北海道石狩市へ政務活動費を活用した個別の視察を計画し、当委員会から任意で募ったメンバーで視察をし、調査してきたものです。石狩市では、当委員会と同じテーマと目的で「再生可能エネルギーを工業団地に活用した企業誘致について」と「地域マイクログリッドの先進事例について」を視察してまいりましたので、その内容を報告させていただきます。

き、ここからの意見や提言を当委員会報告の参考とさせていただければと思います。

再生可能エネルギー活用による企業誘致では、石狩湾新港地域のREゾーンという再生エネルギー供給エリアでかなり広大な企業誘致エリアについて説明を受けました。石狩市は風力発電が大きな電力源になっており、企業から出資を受けた蓄電池で電力を溜めて RE ゾーンに対して電気を送ることに特色をつけ、企業誘致に取り組んでいました。また、地域で生み出すエネルギーを地域で使う、エネルギーの地産地活の新しい電力供給モデル「石狩市厚田マイクログリッドシステム」が令和4年3月に完成し、太陽光による再生電力を近隣公共施設へ供給する運用がされていました。災害時や停電時には蓄電池と水素による電力を指定避難所など地域が孤立しても送電し続けられる仕組みが構築でき、エネルギーの安定供給による地域の防災力向上の実現に繋がっているとのことでした。

半田市に対して活かせることとして、次のことを意見として出させていただきます。

<再エネ活用企業誘致>

- ・一貫したテーマを持って交渉していく上で、テーマによっては新エネルギーの供給エリアを設けることは有効であるので検討してください。
- ・企業連携や環境政策も含めた総合エネルギー管理を担当する部署の創設を検討し特任・専門性を持った職員の育成をしてください。

<地域マイクログリッド>

- ・中部電力や民間事業者と未来のエネルギービジョンを共有しながら地域マイクログリッドを構築し、共に事業を展開していくことを検討してください。
- ・ゼロカーボンシティはんだビジョンにおける促進エリアの地域マイクログリッドの構築を進めると共に、水素や蓄電池、また他にないシステムの開発を企業や大学、研究機関を巻き込んで進めてください。

石狩市への視察は特別委員会として実施したものではありませんが、参考にしながら提言などへまとめていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委員会報告につきましては、皆様からご提出いただいた報告を基に正副委員長で叩き台を作らせていただきますが、地域マイクログリッドを構築していく前向きな提言にさせていただいてよろしいでしょうか。暫く休憩します。

休憩 午後4時22分

再開 午後4時38分

○芳金秀展委員長

会議を再開します。皆さまからいただいたご意見を基に提言案を作成していきますが、休憩中にご意見をいただきました様に、当委員会からの報告は、いずれかは来る災害に対して、市としてどの様に対応していくかを意識した骨組みとしていきたいと思っております。提言案については、できれば12月中にメールで皆さまにお送りし、1月の委員会でご意見をいただきたいと思っております。委員会報告は3月定例会で行いますので、2月上旬までには完成させるスケジュールで進めさせていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

この件につきまして、ご意見などありますでしょうか。

【「なし」との声あり。】

ないようですので、この件については終わります。

では、次に（２）今後の委員会についてを行います。次回の開催日時ですが、次第書に記載のとおりで1月10日（火）全員協議会後の政務活動費管理委員会終了後からの委員会では、報告案の確認を行い、1月26日（木）午前1時からと2月10日（金）午前10時からで委員会にて修正等を行った後、報告書を完成させたいと思いますが、ご予定よろしかったでしょうか。

【「はい」との声あり。】

では、（３）その他については先ほど行いましたが、他にご意見等がありますか。

【「なし」との声あり。】

ないようですので、以上で新エネルギー活用調査特別委員会を閉会します。ありがとうございました。

閉会 午後 4時42分